

真経に住んだ津山藩主の一族

真経地区の北端、香々美川左岸にひらけた集落の背にある丘陵上に、「森大膳亮重政の墓」（町指定文化財）とよばれる場所があります。

森大膳亮重政は、津山藩初代藩主森忠政公の長男として文禄二年（1593）、当時忠政が治めていた美濃国（現在の岐阜県）金山で生まれました。第二子という説もありますが、正しくは長男で、側室の子であったことと病弱であったため、相続権はなく、嫡子忠広の庶兄として育てられたようです。

忠政が津山藩主として美作へ来た際には真経に屋敷を構え居住していました。おそらく病身のため藩の任



真経の森重政の墓

務に就くことが困難で、真経の静かな地で療養をしていたのでしょう。そして、元和4年（1618）にこの地で亡くなります。二十六歳の若さでした。森家の家史である『森家先代実録』には

「作州苦南郡真経村にて御年二十六歳にて卒し給う。同所榎尾畝に葬る。」

と記録があります。

現在真経にある森大膳亮重政の墓は径一・五〇三m、高さ五〇cm程度の石垣を巡らせた土壇が残り、その上には近年子孫の方によって墓碑が建てられています。土壇は墓が作られた当時のものかどうかは不明ですが、亡骸を火葬に付した場所であるともいわれています。

重政の墓から約二〇〇m北に「屋敷の段」とよばれるならかな見晴らしのいい場所があります。ここが重政の屋敷があった場所と伝えられています。

また、『森家先代実録』には、重政の母親もこの地に住んでおり「溝尾に居住す」とあります。現在の大谷橋から約二〇〇m奥に「溝の尾」という所があり、ここに母親の屋敷があったと思われます。母親はお竹

という名でしたが、この地に住んだことから「香々美」とよばれていたようです。

重政の墓は、のちに久米南町の誕生寺に改葬されており、境内に2mを超える大きな五輪塔で供養されています。

重政の義弟で嫡子であった忠広も寛永一〇年（1633）、三〇歳の若さで父忠政よりも早く亡くなり、忠政の外孫、長継が跡を継いで二代藩主となります。



誕生寺の森重政の墓（左側）

参考：「津山市史」、「森家先代実録」、「香々美ふるさとの伝承」、「鏡野町の文化財」ほか

岡山県博物館協議会

クイズラリー開催中

岡山県博物館協議会では、国民文化祭関連事業・岡山県博物館協議会創立20周年記念事業として、クイズラリーを開催中です。

県内76箇所の加盟館でのクイズに正解するとスタンプがもらえ、スタンプの数によって色々な景品を用意しています。この機会に是非チャレンジしてみてください。

町内の加盟館は「妖精の森ガラス美術館」（上齋原・有料）、「鏡野郷土博物館」（ベスタロッツ館2階・無料）です。クイズラリーの用紙は各館窓口にあります。



妖精の森ガラス美術館



鏡野郷土博物館

実施期間：平成22年9月～平成23年5月30日

条件：備前・備中・美作3地区のうち2地区以上で3館以上の有料館のスタンプの印が必要です。

景品：条件を満たした5館達成で記念品がもらえます（記念品はなくなり次第終了）。その他規定のスタンプ数を集めれば抽選で景品が当たります。

その他：県内の加盟館については下記HPをご覧ください。

<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/kenbi/okahaku.html>